

- 原著 -

歯科診療における小児の心理状態と行動の把握
CFSS-DS , Faces Rating Scales および色選択法を用いた検討
筒井 睦¹⁾, 佐野富子¹⁾, 田口 洋¹⁾, 富沢美恵子²⁾

¹⁾新潟大学大学院医歯学総合研究科 口腔健康科学講座 小児歯科学分野 (主任: 田口 洋准教授)

²⁾新潟大学歯学部口腔生命福祉学科 口腔介護支援学講座 (主任: 富沢美恵子教授)

Relationship between the psychological condition and the behavior of children on the dental treatments using CFSS-DS, Faces Rating Scales and the color selection method

Mutsumi Tsutsui¹⁾, Tomiko Sano¹⁾, Yo Taguchi¹⁾, Mieko Tomizawa²⁾

¹⁾Division of Pediatric Dentistry, Department of Oral Health, Course for Oral life Science, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences (Chief: Assoc. Prof. Yo Taguchi)

²⁾Division of Oral Care and Rehabilitation, Department of Oral Health and Welfare, Faculty of Dentistry, Niigata University (Chief: Prof. Mieko Tomizawa)

平成 20 年 10 月 21 日受付 10 月 28 日受理

Key Words ; : CFSS-DS , Faces Rating Scales , 色選択法 , 歯科診療

Abstract : More delicate care should be provided in dental treatments for children than for adults. Although the dentist-patient communication may differ in accordance with each child, dental correspondence may be made easier and dental treatments may be conducted more smoothly if the dentist is aware of the child's psychological condition regarding dental treatment. Therefore, for the purpose of foreseeing psychological condition and behavior during dental treatments, we used CFSS-DS (Dental Sub-scale of Children's Fear Survey Schedule), FS (Faces Rating Scales), and the color selection methods as psychological evaluations to assess the attitude of 34 examinees aged 3 years and 1 month to 7 years and 11 months who had experienced dental treatments. The results were as follows. 1) Fear and anxiety about an upcoming dental treatment were relevant to the psychological conditions of the lower age group children because a positive correlation was detected between the CFSS-DS and the FS values before the dental treatment and between the test values and the child's age. 2) Behavior analysis clarified that fear and anxiety about dental treatment in the lower age group infants was directly reflected in their attitudes during dental treatment, because there was a correlation between the CFSS-DS value and the attitudes during dental treatment. 3) The psychological change between before and after the dental treatments might be understood using the favorite color selection method, and prospective behavior upon entering the treatment room for an appointment might be presumed by the color selection method prior to and after the dental treatment. 4) The color selection method was effective in predicting the children's behavior upon entering the treatment room, which CFSS-DS and FS could not foresee completely.

抄録 : 小児の歯科診療においては、成人よりきめ細やかな対応が必要である。小児患者に対してどのような対応法をとるかについては、対象となる小児によって異なるが小児の歯科診療に対する心理状態が把握できれば、歯科的対応が容易になり、歯科治療を円滑に進めることができると考えられる。

そこで、今回、新潟大学医歯学総合病院小児歯科診療室を受診した、歯科受診経験のある 3 歳 1 か月 ~ 7 歳 11 か月の 34 名の健常小児を対象に、歯科診療時の心理状態と行動を把握することを目的に、心理的評価として CFSS-DS, FS, 色選択法 (心理的評価) を用いて歯科診療時の小児の態度 (行動評価) を観察し検討を行った結果、以下

の知見を得た。

1. CFSS-DS 値と診療前の FS 評価値, および年齢との間に正相関がみられたことから, 診療前の低年齢小児の心理状態は, 歯科恐怖や不安と関連性があることが明らかになった。
2. CFSS-DS 値と診療中の態度との間に相関がみられたことから, 低年齢小児では歯科診療に対する歯科恐怖や不安がそのまま診療中の態度に表出されることが心理行動解析によって示された。
3. 好きな色選択法は診療前後の心理的变化を, 診療前後での色選択法は次の歯科診療時の入室時行動を把握できる可能性が推察された。
4. 色選択によって, CFSS-DS と FS では捉えきれない小児患者の入室時の行動を把握できる可能性が示唆された。

【緒 言】

小児の歯科診療においては, 成人よりきめ細やかな対応が必要である。小児患者に対してどのような対応法をとるかについては, 対象となる小児によって異なるが, 一般的対応として TLC (tender loving care) の態度で接し, 優しい言葉使いでスキンシップをはかるような方法が行われている。また, 行動変容法として TSD (Tell Show Do) 法, モデリング法あるいはオペラント条件付け法などを併用することも多い。その際に, 小児の歯科診療に対する心理状態が把握できれば, 歯科的対応が容易になり, 歯科治療を円滑に進めることができると考えられる。

小児患者の心理状態の把握に関しては, 小児の歯科恐怖に関する研究¹⁾, 小児の歯科診療に対する不安度の研究²⁾, 小児の歯科診療時の行動と心理に関する研究³⁾などが報告されており, 歯科恐怖調査表: Dental Sub-scale of Children's Fear Survey Schedule (以下 CFSS-DS)¹⁾ やミニチュア歯科診療室を用いた箱庭療法²⁾, 幼児歯科診療協力検査³⁾ さらに絵画不安テスト⁴⁾などが用いられている。しかし, それらの方法を小児に応用するには, 意思の伝達方法, 不安や言葉の理解度などから困難な場合がある。

色彩は子どもの感情体験や精神的発達を評価する場合のひとつの要素であるといわれており, パーソナリティ検査の道具として用いられている⁵⁾。また, 色彩はパーソナリティの重要な要素であり, 子どもが教育現場や家庭生活においてさまざまな経験をする場合に, どのような影響を受けているのかということを知ることが誰かが理解するのに役立つと考えられている⁶⁾。そこで, 著者らは障害児者にも簡便に使える色選択法を考案し, 歯科診療前後の気持ちを表す色および好きな色を選択させ, 歯科治療時の知的障害児・者の適応状態を観察し, 心理状態の把握方法としての色選択法の有効性について報告した⁷⁾。

本研究では, 健常小児の歯科診療時の心理状態と行動を把握することを目的とし, 歯科治療に対する心理的状

態(恐怖や不安感)を CFSS-DS や色選択法を用いて評価し, さらに色に対する感情を Faces Rating Scales (以下 FS)^{8),9)}を用いて表現させ, 歯科診療時の小児の態度(行動評価)を併せて観察し検討を行った。

【対象および方法】

1. 対象

2007年4月から6月までの3か月間に, 新潟大学医学総合病院小児歯科診療室を受診した, 歯科受診経験のある3歳1か月から7歳11か月の男児22名, 女児12名の合計34名である。

なお, 今回の研究にあたり, 保護者に研究の目的および方法について口頭で説明し, 承諾を得た。

2. 方法

1) 調査項目と手順

調査は, 待合室と診療室(診療前・診療中・診療後)において, 全ての項目(表1)を著者1名(歯科衛生士)で図1の流れに沿って行った。まず, 待合室で被験児が歯科治療に対してどの程度の不安や恐怖を持っているかどうかについて, 歯科恐怖調査表(以下 CFSS-DS)¹⁾を用いて調査した(表2)。CFSS-DSの質問項目は15項目あり, 項目毎に5段階でスコア化し, 得点が高い程, 歯科に対する恐怖度が高くなり, 最高75点となる。

表1 調査項目

待合室での調査	
1. CFSS-DSによる心理的評価	
2. 5色の色認識の可否	
3. 5色に対するイメージ(FS評価)	
4. 好きな色	
診療室での調査	
5. 行動評価	(入室時)
6. 色選択とFS評価	(診療開始前)
7. 行動評価	(診療中)
8. 色選択とFS評価	(診療終了後)
9. 治療内容	